



五股町

基本計画
基本構想

本松交流拠点

1.これまでの経緯

なぜ、この事業に取り組み始めたの？

- ▶ 豊かな自然環境や生活利便性の高さ、子育て支援等が評価され、本町の人口は増加し発展を遂げてきました。しかし、少子高齢化の進展や人口分布の変化により、町の人口構造に大きな変化が生じています。
- ▶ 人口規模を維持できる**魅力あるまちの実現**を目指して、五本松団地跡地を活用し、**三股の暮らしの魅力**を高める新しい拠点を創るという方針を立て、令和元年度に基本構想を策定しました。
- ▶ コロナ禍により人々の価値観や意識が変化したことが、**社会生活において本質的に大切なこと**に目を向けるきっかけとなりました。人の接触が制限され、様々な活動が自粛を余儀なくされる中、**人の交流が心の豊かさやまちの元気にとって極めて重要**であることを再認識しました。
- ▶ 三股町のなかで人の交流が活発に起こり、様々な人の関わりを生み出しながら「**元気あふれる町みまた**」を実現することを目指して基本計画を策定し、交流拠点整備事業を推進します。

この事業で、何をを目指すの？

2.本事業のねらい

暮らしが息づく場をつくり、^①三股の暮らしの魅力^②を高める

- ▶ 三股町がこの事業で実現したいまちの将来像は「自分らしい暮らし方ができるまち」です。
- ▶ 三股に住む人、三股に関わりのある人、それぞれが良いと思う「**学び方、働き方、楽しみ方、遊び方、くつろぎ方、生き方、暮らし方**」を実現できる場所、あるいは、実現に役立つ場所として交流拠点を整備します。
- ▶ 三股に愛着を持ち、三股の暮らしを楽しむ人たちが多様なコミュニティとしてまちに根付いていくことを目指します。

「暮らしの魅力」づくりに繋げる二つのポイント

POINT①

「暮らしが息づく場」にするため、日常的に人の姿がある場所にする

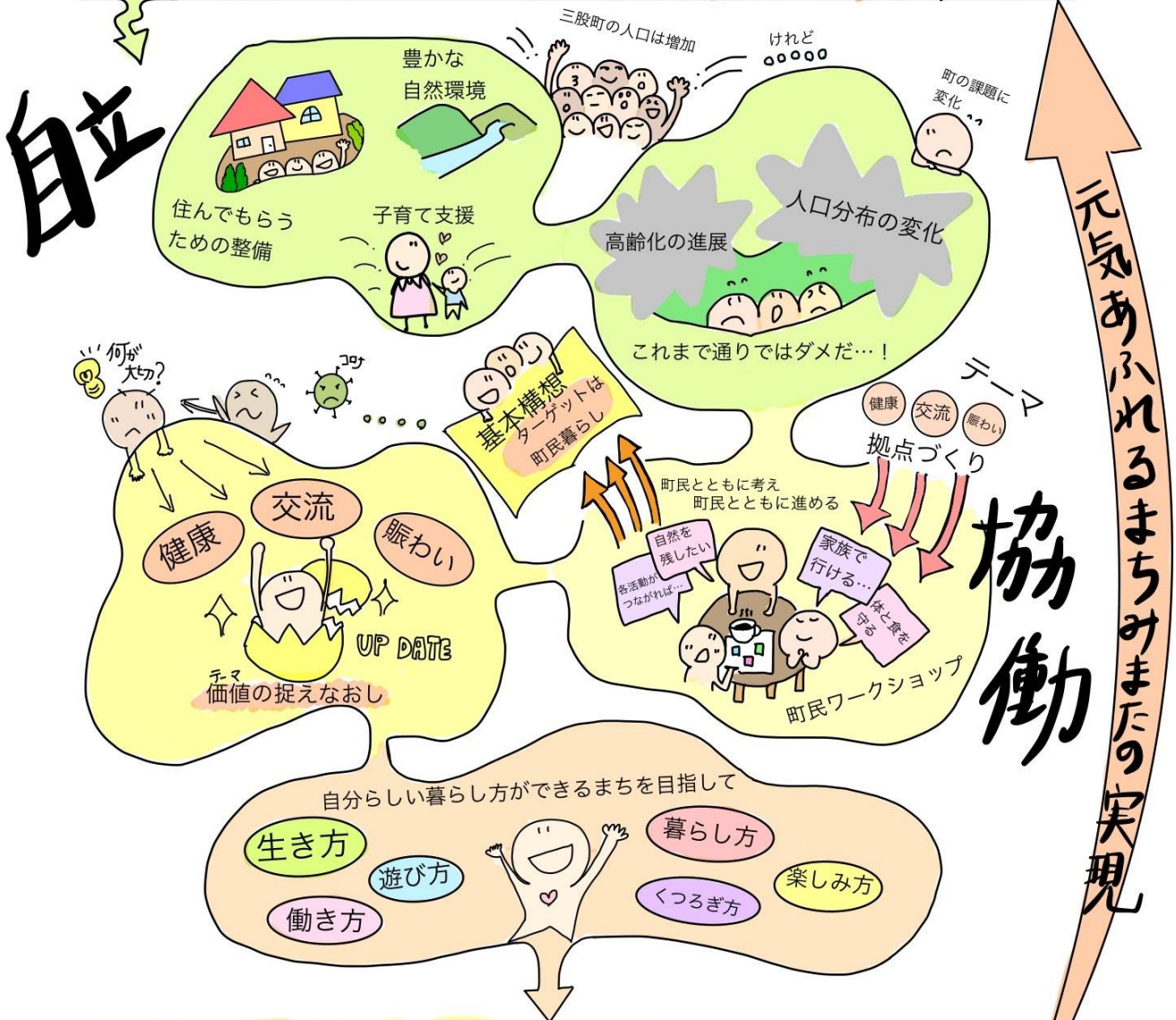
- ベットタウン的な性格や、年少人口と高齢人口の割合等を踏まえ、曜日や時間帯によってターゲットを的確に想定しながら、コミュニティバス等公共交通と連携し、車を運転できない人や遠方の人でも行きやすくします。
- 日常生活に役立つ機能を取り入れ、立ち寄りやすく居心地が良い空間にすることで、様々な交流の場、コミュニティの活動の場とします。

POINT②

「三股の暮らしの魅力を高める」ため、多様な目的を混ぜ合わせる

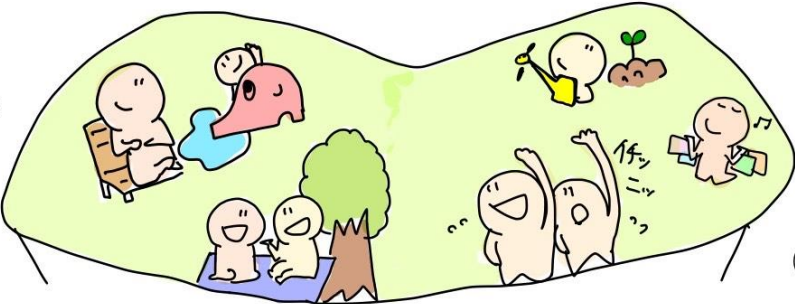
- 生涯学習や、文化芸術活動、子育て世代の交流や健康づくり、日常の買い物など、多様な目的を混ぜ合わせ、新しい魅力を生み出す。あわせて、明確な目的がない人にとっても行きやすい場所にします。
- 健診や母子保健などの行政サービスを提供します。
- イベントなどを企画・実施し、非日常的な目的も組み合わせます。

自立と協働が織滅す 元気あふれるまちめまた



暮らしが息づく場をつくり三股の暮らしの魅力を高める

①日常的に人の姿がある場所にする



②多様な目的を混ぜ合わせる



3. 「暮らしの魅力」を創出する4つの機能

(1) 【導入機能】 学び機能 ▶ 【暮らしの魅力】 学ぶ人が増える 仲間ができる 成長できる

① 「学ぶ人が増える」=多様な「学び方」

個人の知的欲求に応える学び、学習スペース、WI-FI 環境、地域コミュニティの活動の場

② 「仲間ができる」=交流を目的とした「学び」

学びを通じて同じ趣味を持つ人や多世代の交流が活発になる学び、発表や展示の場

③ 「成長できる」=成長を目的とした「学び」

資格取得やインストラクター、講師の養成、町民の目標の達成や夢の実現を支援する学び

(2) 【導入機能】 子ども子育て機能 ▶ 【暮らしの魅力】 子育ての喜びを共有できる

- 日常的にできる交流の場を設けるなど、「支援」ではなく子育てを楽しめる環境づくり
- 天候に左右されない屋内空間や屋根付きスペース、親子や子ども同士でのびのびと過ごせる場

(3) 【導入機能】 健康づくり機能 ▶ 【暮らしの魅力】 仲間とともに健康づくりができる

- 仲間たちと楽しく健康づくりができる環境整備、子どもも含めた幅広い世代の健康づくり
- 健康管理センター機能移転、より高い健康増進効果を目指した取り組み

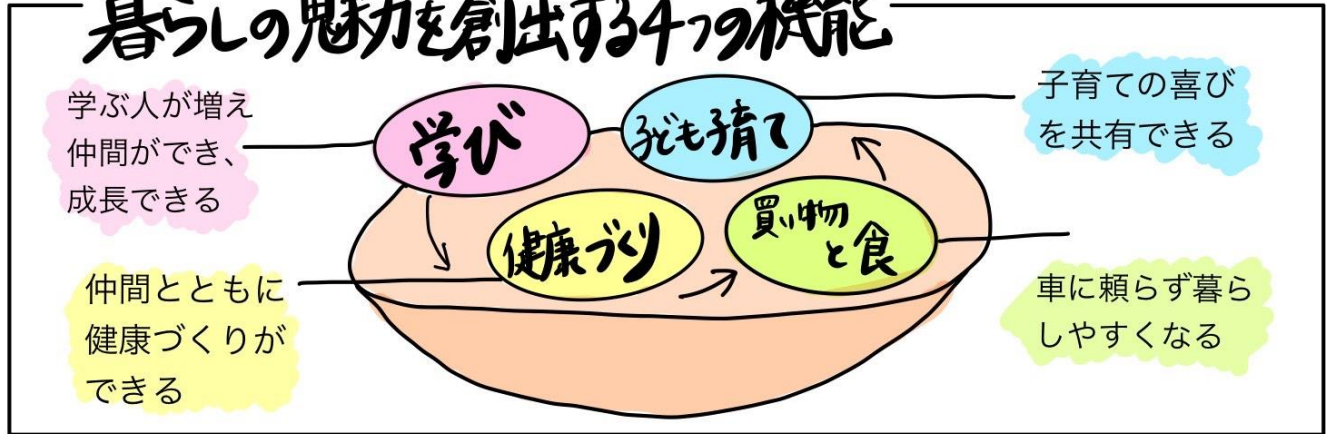
(4) 【導入機能】 買い物と食の機能 ▶ 【暮らしの魅力】 車に頼らず暮らしやすくなる

- 日々の生活に欠かせない買い物と食の機能、コミュニティバスのネットワーク強化、買い物支援
- 地元事業者との連携、地場産品の魅力発信、地域内経済の循環

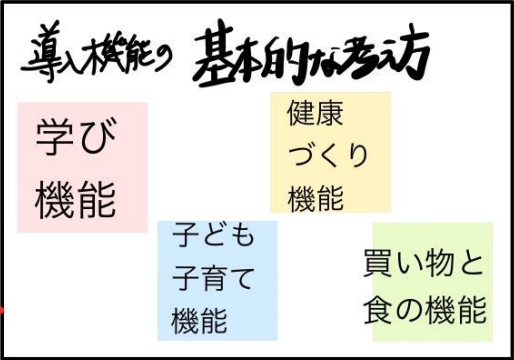
4. 三股らしい、三股ならではの暮らし ～「暮らし」は まちの文化～

- ▶ 「学び」「子ども子育て」「健康づくり」「買い物と食」の4つの機能を複合化することで、バラバラに行われていた文化活動や日々の育児、健康づくりや毎日の買い物を1ヶ所で済ませることができるようになり、コミュニティバス等の公共交通でも利用しやすくなることで、時間の使い方や暮らしのスタイルが変わり、三股ならではの魅力的な暮らしが生まれます。
- ▶ 「暮らしが息づく場をつくる」ということは「暮らしを文化として根付かせる」ということです。交流拠点という場所を活用し「三股の暮らし」と言える新たな文化を育みながら、三股らしい、三股ならではの「暮らしの魅力」を生み出します。

暮らしの魅力を創出する4つの機能

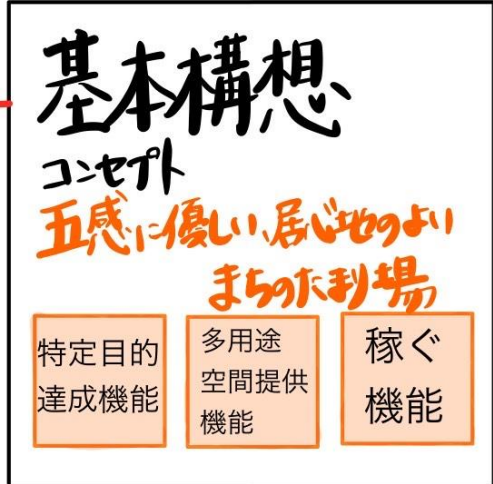


三股町の暮らしのあり様と町民ワークショップの声に立ち返りながら検討を進めてきました。

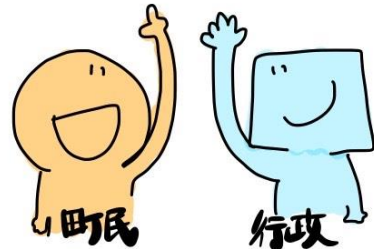


誰でも学習できる場所がほしい	自己表現できる機会がほしい	学びの共有ができる仲間がほしい
天候に左右されない遊び場がほしい	子育てを共有できる仲間がほしい	親子でのびのび過ごせる場がほしい
歩きたくなるまちになってほしい	三股の子どもが元気であり続けてほしい	楽しく健康づくりができる機会がほしい
交通弱者を対象とした支援がほしい	地場産業の振興	買い物支援がほしい

↑↑↑
具体化に向けた検討



↑↑↑
町民ワークショップ



五感に優しい、居心地のよいまちのたまり場

5年後、10年後から振り返ったとき、ここにはどんな“思い出”がたまっているだろう？
 子どもの頃の楽しかった思い出、部活の帰りに寄り道した思い出、家族と公園でのんびりした思い出、趣味に没頭した思い出、夫婦で夕方散歩した思い出…
 何気ない日常でも、それがいつの間にか大切な思い出になったりもします。
 交流拠点施設は、そんな“何気ない幸せな日常”が気づいたらどんどん集まってくる。
 そんな場にしていきたいと思っています。一緒に暮らしが息づく拠点をつくっていきませんか？



きゃ～
水が冷たいっっ
井ノ

孫もよくあんな風に
笑ってたよね～



お母さん～
私が描いた
絵見て～！

〇〇の絵の前
に集合ね！

ここで何度も
作品作ったな～

この部屋絵の具の
においがする～！

昔、ここで個展を
開いたんですよ～



小学生の頃
みんなで
花植えてたな～

花が咲くのが
楽しみですね～

わあ！
土が柔らかい～

あ、部活の自主練してる
懐かしいね～



～♪
ここで売ってる
地元のコロッケ
学生の頃よく食べてたな～

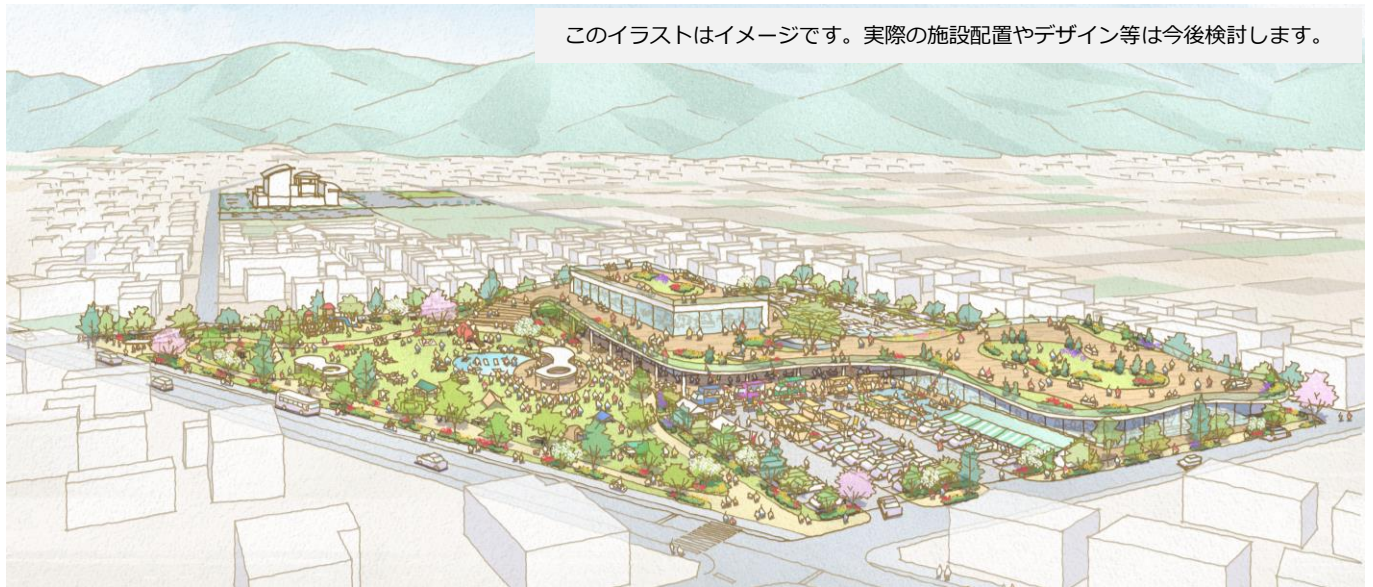
元気にしてた～？

あ！〇〇
ちゃんのお店だ～

雨だけど家族で
出かけられて
楽しいな♪

6. 施設活用イメージ

～どんなことができるの?～



施設活用イメージ	町民交流施設					屋外施設 (広場/屋根付き スペース)	商業交流施 設
	諸室	ギャラリー スペース	コミュニティ キッチン	運動交流 スペース	健康相談 スペース		
学び①	多様な 学び	●学習スペースやオンライン環境 を整え、多様な学びを提供	●フリースペ ース				
学び②	交流の 学び	●ワクワク教室の実施 ●学びコンテンツ	●作品展示 ●ミニ発表会	●食育、料理 教室	●運動系の 教室	●あおぞら教室 ●ミニステージ ●運動系の教室	●お仕事体 験
学び③	成長の 学び	●スキルアップや資格取得講師 養成セミナー等		●料理教室 ●マナー教室			
子ども 子育て	子育て の喜び を共有	●子育て世代の交流の場 ●子どもの遊び場	●ミニコンサ ート	●離乳食教室	●子育て世 代の交流 ●子ども体 力づくり	●母子保 健事業 ●子育て世 代の交 流の場 ●子どもの遊び場	●子ども連 れて食事
健康 づくり	仲間と ともに 健康 づくり	●集団健診会場	●集団健診 時の待機 スペース	●栄養教室	●筋カトレ ーニング ●介護予防	●健康相 談 ●集団健 診会場	●からだに 良い食の 提供
買い物 と食	暮らし やすさ	●イベント会場	●イベント会 場	●イベント会場		●イベント会場	●店舗経営

< デザインコンセプト >

機能的要素	機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理がしやすくアップデートが容易で、時代やニーズの変化に対し、柔軟性や耐久性がある機能 ● 多様な人の「やってみたい」ことを「やっている」状態に変換する、使い勝手に優れた機能 ● 世代ごと、地域ごとのニーズに即した、心身ともに健康的な暮らしを支える利便的機能
	役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な人の「やってみたい」気持ちを応援し、それぞれのライフスタイルの実現を支援する役割 ● まちづくり事業を企画する構想力と、それを実践する行動力を備え、持続的に活動しながら、三股の暮らしをおもしろくする役割 ● 三股の暮らしの魅力を発信する役割

情緒的要素	空間	<ul style="list-style-type: none"> ● 五感で感じる居心地の良さがあり、無意識に人が惹きつけられる構造的魅力を持つ空間 ● 各空間領域の境界が緩やかで、屋内が屋外に対して、拠点がまちに対して開かれ、人のつながりが生まれやすい空間 ● 土地が持つ歴史的背景や人の記憶、周辺環境との調和を読み解き、場所性が表現された空間
	居場所	<ul style="list-style-type: none"> ● アクセスがしやすく、個あるいは集団がそれぞれの居場所を手軽にストレスなく確保できること ● 明確な利用目的を持たない来訪に対してオープンであること ● 休憩や飲食ができる場が備えられ、時間消費しやすいこと

7. 実現に向けて ～どのように、実現するの？～

(1) 地域密着型官民連携

- ▶ 官民連携については「地域密着型官民連携」という考え方をもって取り組みます。地場産業の振興に資する事業となることを目指し、地元事業者を中心に、専門的なノウハウを持つ事業者の協力を受けながら、施設の運営体制を構築します。

(2) 体制づくりの考え方

- ▶ 気候変動、人口減少、感染症による公衆衛生の危機など、社会生活に迫る様々な課題に対して、計画主義、予算主義の行政運営で「未来」を的確に捉えることは困難です。倫理観と理念に基づき「目の前の今」と「少し先の未来」に柔軟に対応できる体制が求められます。
- ▶ 社会生活に密接に関係する「まちづくり」において、町民・事業者・行政のみんなで考える「自治体経営」的発想に切り替え、まちづくりの体制を構築することに挑戦します。

(3) 交流拠点整備に向けた官民共同事業体の設立

- ▶ 本事業は総合計画をはじめとするまちづくりの計画に基づくものであり、具体的な事業内容が、町が目指す方向性をしっかり踏まえている必要があります。
- ▶ 「公共のマインドを持ちながら、民間的経営感覚を取り入れて事業ができる、中長期的に持続可能な官民共同事業体」を「まちづくり会社」として設立し、まちづくり会社を中心に事業を実施します。

(4) 事業スケジュール

■令和3年度～令和7年度

年度	取り組み内容	説明
令和3年度	基本計画の公表	● 11月25日公表(予定)
	官民連携実施方針の公表 民間事業者との対話	● 速やかに実施方針を公表し、対話型市場調査を行う。 ● 対話の内容を踏まえ、事業スキーム等を検討する。
令和4年度	まちづくり会社設立の検討 事業スキームの構築	
	事業者選定 設計着手	● 事業スキームをもとにパートナーとなる民間事業者を選定する ● 設計に着手する
令和5年度	都市再生整備計画事業着手 設計完了	● 都市再生整備計画事業を活用し、拠点周辺の道路公園等環境整備を行う。 ● コミュニティバス等公共交通の利便性向上に資する取り組みも実施する。 ● 令和5年度中の設計完了を目指す。
令和6年度	工事着工	● 設計に基づき整備工事を行う。
令和7年度	供用開始	● 令和7年度内の供用開始を目指す。 ● 進捗状況に応じて、一部供用開始も想定する。

8. 重要なポイント

～どんなことを大事にするの？～

テーマ	「健康と交流と賑わいの拠点づくり」	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 策定方針の時点から「健康と交流と賑わいの拠点づくり」というテーマを掲げ、基本計画でもこのテーマを継承しています。 ● コロナ禍により人々の価値観が大きく変化していることにも目を向け、あらためて「健康」「交流」「賑わい」とはどのようなもので、暮らしにおいてどのような意味を持つものなのか、その考え方を次のように整理しました。 	
■各キーワードの考え方		
健康	<ul style="list-style-type: none"> ● やすらぎある健やかな暮らしを求め、精神的、身体的に健康でありたいと願う、誰にも共通する普遍的志向である ● 健康志向は共感性が高く、また、行動を起こすきっかけになる ● 水資源や農産物など三股の自然環境がもたらす多くの恵みは、健康な暮らしの源である 	「健康」は生き生きとした暮らしに欠かせない重要な要素
交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 人と人とのふれあいや顔の見える関係性が自然と生まれている様子が交流であり、交流はコミュニティ形成の種である(リモートによる交流も含まれる) ● 同一の目的で行動する人たち(集団内)の交流のほか、行動する人の様子とそれを見る人との関係性も「広義の交流」と捉える ● 人々を魅了する自然景観、三股の自然の恵みである農産物や、その生産者と消費者など、自然を媒介として人と人との多様な交流が育まれることにも目を向ける 	「交流」があることで暮らしは豊かになる
賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的の有無にかかわらず、個人あるいは集団がそれぞれに多様な時間消費行動を行うことで、人たちの姿が視覚的に認識される様子を賑わいと捉える ● 日常の中で、多様な交流が同時に複数存在する状態 	「賑わい」が持続することで暮らしが息づく

スローガン	「町民とともに考え、町民とともに進める」
	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想では「町民とともに考え、町民とともに進めるまちづくり」を事業のスローガンとしました。基本計画でもこのスローガンを継承します。 ● 本事業における官民連携は、地場産業の発展につながることを目指して取り組むこととしています。官民連携の検討についてもスローガンの基本である「町民とともに」の理念に基づき、地元事業者との連携を目指した「地域密着型官民連携」という考え方をもって進めます。

ターゲット	「町民の暮らし」
	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想において「暮らしの一部分に、交流拠点での時間を取り入れることで、みまたの暮らしに潤いと豊かさを与えること」を事業の目的とし、「町民の暮らし」をターゲットとしました。基本計画では、ターゲットとした暮らしにどのような価値を提供することができるか検討しました。 ● ターゲットとした町民の暮らしがどのようなあり様で、そのことを踏まえどのような暮らしのあり方を目指すのか、関連計画や各種資料を用いて整理し、町民ワークショップの内容や各種委員会等で出された意見も取り上げながら、目指すべき暮らしの将来イメージを捉えます。

「自分らしい」暮らし方ができるまち」を目指して

この事業ではこれまで、町民ワークショップや委員会、ヒアリングなどを通して皆さんの声を聞きながら、「三股町としてどんなまちを目指していきたいのか」ということを探求してきました。さまざまな声を聞く中で何度も聞かれたのが、「三股らしさ」という言葉です。

「三股らしさ」とは何か

令和2年3月に策定した基本構想では「三股らしさ」を見出そうとする町民性こそ、「三股らしさ」を生み出す出発点であると捉えました。そこから約1年半という期間を経て、今回策定する基本計画では、「三股らしさ」を見出すためにまちが目指すビジョンを「自分らしい暮らし方ができるまち」としました。

集まって語り合ったり、楽しく考えたり、仲間が集まったら一緒にやってみる。そんな風に「自分らしく」ともに進んでいく過程で「三股らしさ」が形づくられていくのではないのでしょうか。

「自分らしい暮らし方ができるまち」を目指して、これからも町民とともに考え、町民とともに進んでいきたいと思えます。

【お問い合わせ先】

三股町 五本松交流拠点施設推進室

(担当：河野、宮元、清山)

TEL：0986-52-1120

MAIL：suisin-k@town.mimata.lg.jp

基本計画の詳細はこちらから↓



らしさの作り方

1. 集まる場所を確保する
2. いろんな人たちと集まる
3. 三股のことについてしゃべる
4. 楽しいこと、やりたいことを考える
5. やりたいことは、やってみる

ごほんまっくんのからの手紙の書き方

ニックネーム



好きな“かお”を書いてね

▶紙で提出したい方

図書館や三股町役場案内に置いてあるBOXに出してね。

▶画像データで提出したい方

提出フォームに画像をアップロードして出してね。



←ごほんまっくんからの手紙提出フォームです

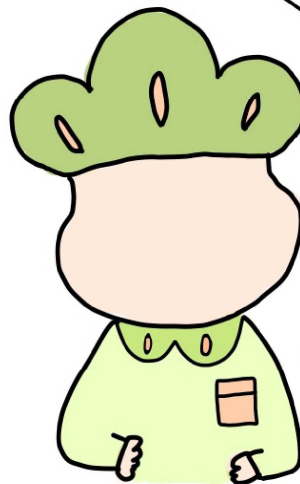
届いた手紙は今後実施するイベントや施設完成後に交流拠点施設内で展示することを想定しています。



キリトリ線

ニックネーム

キリトリ線



年 月 日

ごほんまっくんより